

## めざせ春どり増収!!

## アスパラガス茎枯病徹底防除の“処方箋”

近年、県内のアスパラガス栽培では、茎枯病が多発し、減収の大きな原因となっています。「自己採点表」を活用し、防除技術（作業）が適切に行われているか確認しましょう。また、立茎前の全刈り・畦面盛り土+薬剤体系防除に取り組むなど管理作業にもうひと手間かけ、茎枯病防除に努めましょう。

## 1 アスパラガス茎枯病とは

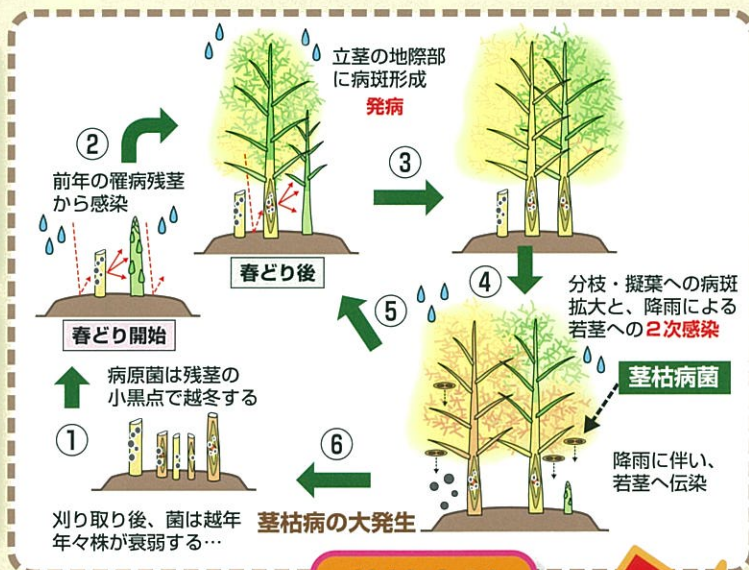
病原菌はカビの仲間で、茎に赤褐色紡錘形の病斑を作り、枯らします。病斑上に小さな黒い粒を作るのが特徴です。病原菌は雨滴で広がるので、露地栽培では春どり期や立茎期に一旦発病すると、その後急激に被害が拡大します。その結果、養分蓄積が悪く、翌年の収量が減少します。また、病原菌は病斑内で越冬し、翌年の伝染源になります。よって、発病茎をほ場に放置したままだと、翌年も発病しやすく、発病時期も早まります。このようなことから、露地栽培における安定生産の最重要事項が「茎枯病の防除」となるのです。



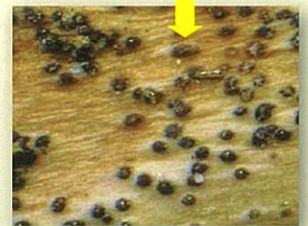
春どり残茎の病斑



刈り取り残茎の病斑上で越冬



病斑



病斑上の黒い粒＝柄子殻（雨水に濡れると胞子を噴出）

茎枯病が毎年多発

## 2 茎枯病防除対策の基本は

## ■ 伝染源を無くす⇒ 基本は圃場内の病茎・残渣をかたづける

- 秋冬期に茎の刈取り・持ち出し・（焼却）
- 冬～春期（萌芽前）に畦面の残茎片づけ・畦面焼却
- 春どり後、立茎前の全刈り・片づけ 畦面盛り土（培土）5cm厚（a）
- 夏秋期に発病茎の抜き取り

## ■ 感染機会を無くす⇒ 一番は雨よけ

- 畦面を覆う（泥はね抑える）有機物マルチ
- 株養成期の薬剤散布

## ■ 感染時に早期治療⇒ 立茎開始時～30日間に防除効果高い薬剤を散布（b）

※(a) と (b) 両方を実行すること

防除対策を徹底!!



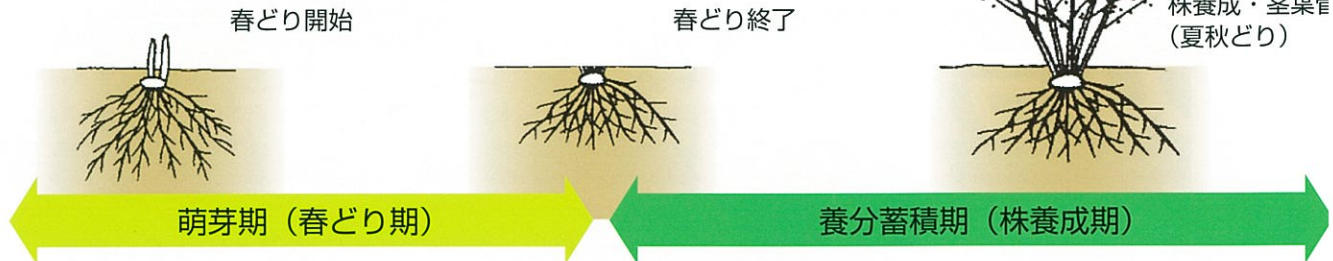
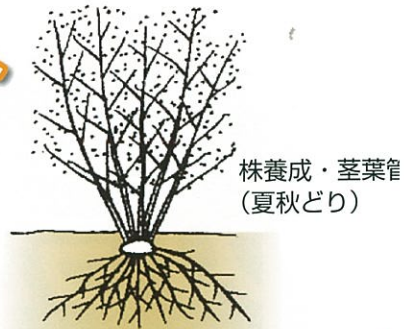
茎枯病激発 収量大幅減のほ場



生育良好 収量が期待できるほ場



# 3 露地アスパラガスの一年と茎枯病の防除のポイント



※生育ステージ・作業時期はおよその目安

4月	5月	6月	7月	8月	9月
----	----	----	----	----	----

## 【立茎期の防除】

**重要**

- ① 畦面の全刈り
- ② 畦面への盛り土または有機物での被覆
- ③ 立茎始まったら薬剤散布

### ① 畦面の全刈り (感染源を除く) ア

収穫残茎・萌芽中の若茎を地際から刈取る。  
刈り払い機が効率的

※萌芽中の若茎も、既に感染している恐れあり。一斉立茎で健全な立茎づくりを目指す。



### ② 畦面へ盛り土 (感染源を埋める) イ

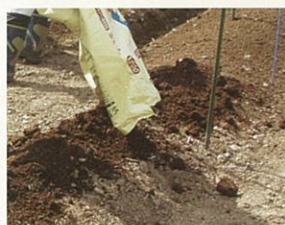
厚さ5cm程度に培土する  
残茎や刈痕を完全に埋設する



残茎露出防止!!  
覆土厚を5cm確保

### ② 有機物での畦面被覆 ウ

厚さ5cm程度に被覆する  
残茎や刈痕を完全に埋設する



### ③ 立茎始まったら薬剤散布 (予防と感染時の早期治療) エ

2~3cm程度の萌芽がみられたら散布開始  
その後3~7日ごとに散布  
(効果の高い剤を組み込む)



特に立茎開始からの30日間を徹底防除

この時期に散布開始

その他  
・雨の降らない時期に立茎開始する  
・畦面や通路への敷きわら

## 【株養成期の防除】

- ① 発病茎の抜き取り
- ② 薬剤散布

### ① 発病茎の抜き取り ク

紡錘形病斑、黒点(柄子殻)に注目、夏芽発生時の伝染源を取り除く



### ② 養成期の薬剤散布 ケ

夏芽や二次分枝など柔らかい部位に感染しやすい  
定期的に防除を行う  
降雨期には防除回数を増やす



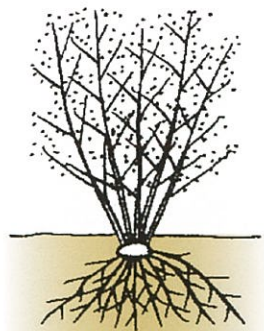
### その他 過繁茂にさせない管理

- ・立茎数20本以下/m
- ・茎葉の刈込み
- ・夏秋どりは有効

力  
力  
キ

ア~コは、茎枯病防除自己採点表の作業内容





茎葉刈取り



越冬



養分転流期（黄葉期）

休眠期

10月

11月

12月

1月

2月

3月

## 【休眠期の防除】

- ① 茎葉の刈取り
- ② 罹病残茎の抜き取り
- ③ 畦面の残渣のバーナー焼却

## 【盛り土（培土）戻し】

前年に畦面へ盛り土（培土）したほ場では、春の萌芽前に土を畦間へかき落とす

### ① 茎葉の刈取り・ほ場外への持ち出し

発病の甚大なほ場は早期に作業を行う



### ② 罹病残茎の抜き取り

翌春の萌芽期までに行う



### ③ 畦面の残渣のバーナー焼却

残茎表面が炭化する程度に焼却する  
残茎の死角に注意する 延焼や農作業事故に注意する



炭化の目安

## 【最も有効な対策は雨よけ】

立茎前から被覆を行う

### 簡易雨よけ

1畦被覆型 防除効果は期待できる  
かん水できないほ場での雨よけ方法  
茎葉の頂部の蒸れに注意



### ハウス雨よけ

防除効果は高い  
かん水のできるほ場で設置する  
(収量確保にかん水は必須)  
高温期のハウス内の蒸れに注意



### 小型ハウスの半促成栽培（イ）

春どり終盤に被覆除去せず、  
立茎完了まで雨よけ延長する





# 4 露地アスパラガスの茎枯病防除 自己採点表

露地アスパラガスの茎枯病は個別技術のみでは防除できません。いくつかの防除技術（作業）を組み合わせることで、実用的な効果が得られます。

以下の項目に沿って作業ができたかどうか、自己採点してみましょう。

ほ場の状態に合わせて最も効果的な方法を組み合わせることで茎枯病を克服しましょう。

項目	作業内容	配点	自己採点欄		
			確認	実施状況	
			28年度	29年度	30年度
伝染源の除去	次のいずれかを必須事項とします	ア 30	+	+	+
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発病残茎の抜き取りとほ場外への処分</li> <li>● 火災滅菌（発病残茎をバーナー等で炭化・焼却）</li> <li>● <b>立茎前の残茎株の全刈りと完全に埋設される盛り土（5cm）</b></li> </ul>				
雨よけ	簡易雨よけ・パイプハウス化 ※立茎前から被覆を行う （立茎開始から立茎完了までが特に重要）	イ 50			
立茎開始からの管理	● <b>立茎初期から効果の高い薬剤で体系防除（JA等の指針に従う）</b>	ウ 25	+	+	+
	畦面や通路を有機物で被覆（残茎をしっかり埋設）	エ 5			
	雨の降らない時期に立茎開始	オ 5			
	適正な立茎調整（立茎数の整理、株元の通風確保）	カ 5	+	+	+
養成期間中の管理	● 夏秋芽の収穫（立茎調整）	キ 10	+	+	+
	● 発病茎の抜き取りとほ場外への処分	ク 5			
	● 定期的な薬剤散布（JA等の指針に従う）（必須）	ケ 5			
茎葉刈取	● 茎の刈り払い＋ほ場外への処分（地際からしっかりと刈り取る）	コ 10			
合計80点以上が目標です			合計点数		
			↓	↓	↓

お問い合わせは、最寄りの農業改良普及センターまたはJAへ

〈編集・発行〉 ●長野県園芸作物生産振興協議会 TEL026-235-7228 FAX026-235-7481  
（事務局：長野県農政部園芸畜産課野菜・特産係）

●JA長野県営農センター TEL026-236-2020 FAX026-236-2023

(2017年5月作成)